

令和3年度
(2021年度)

市長公室の取り組み実績

<部長の方針・考え方>

- ◆前例にとらわれることなく、ウィズコロナ社会での市民の不安や悩みにしっかりと寄り添い、真に必要な対応・対策に一丸となって全力で取り組む。
- ・感染状況や市民・事業者等の声を把握し、迅速かつ適切な情報の発信と心の繋がりを大切にするシティプロモーションの推進。
- ・ICTを活用した各種相談体制の構築と地域での情報連絡体制の構築支援。
- ・人権問題の多様化、複雑化への対応とコロナ禍での偏見・差別の防止に向けた啓発や在宅勤務の増加等による新たなDV事案の対応とDV予防教育の充実。

具体的な取り組み：情報発信力強化・効果的な広報の実践

新型コロナウイルスをはじめとする危機事象における緊急情報を迅速かつ適切に市民に届けるため、関係部署と連携し、市ホームページや公式 SNS を活用した積極的な情報発信を行うとともに、市民の視点に立ち、知りたい情報へのたどり着きやすさやスマートフォンでの見やすさを重視したホームページの再構築を令和4年度の更新に向けて実施します。

また、全庁的な情報発信力の強化を図るため、現在、広報ひらかたで使用している多言語アプリを全庁的に活用できるよう、事務手続きの整理や関係各課との調整等を行います。

実 績	<ol style="list-style-type: none">① 新型コロナウイルス関連情報をはじめ多様な情報をホームページやSNSを活用し、きめ細かに発信。<SNS発信：2,655回>② 広報ひらかたでコロナ関連特集を毎号掲載し、コロナワクチンの接種開始にあわせて臨時号を配布。<巻頭特集：66ページ、臨時号：4ページ>③ 市公式ホームページを全面リニューアルし、見やすさ・探しやすさを向上するデザイン改善や機能強化を実施。④ 多言語アプリのより効果的な活用に向けて、幅広い冊子・リーフレットを掲載できるよう事務手続きの整理・検討の実施。
説 明	<ol style="list-style-type: none">① 新型コロナ感染情報を土日・休日を問わず毎日ホームページを更新、SNSで発信しました。また、市公式LINEについては配信を希望する情報を選択できるよう機能拡充し、より幅広い情報の発信に対応しました。② 紙媒体で全戸配布する「広報ひらかた」では、新型コロナウイルス関連の情報を最優先し、毎号にわたり巻頭特集を組むなどにより、市民への周知・啓発を行いました。③ ホームページのデザインをスマートフォン閲覧に適した構成に一新し、外国語翻訳は8か国語に対応、「やさしい日本語変換」機能の実装により閲覧性の向上を図りました。さらに、目当ての情報が探しやすくなるよう、危機管理ポータルサイトや各サイトの玄関口となる総合トップページを新設しました。

	<p>④ 10言語に対応する電子書籍アプリ「カタログポケット」に広報ひらかたを毎月掲載した他、新たに「新型コロナワクチン接種予約のしおり」を掲載しました。多言語対応の機能性を生かした効果的な活用に向けて引き続き関係課との調整を進めます。</p>
--	--

具体的な取り組み：心を繋ぐシティプロモーションの推進

長引く新型コロナウイルス感染症による難局の中においても、キャッチフレーズ「必ず乗り越える。コロナの先へ」を掲げ、市民に元気や勇気を与えるような動画提供に取り組むとともに、行政と市民が一緒になって枚方市のPR方策等を検討するため、オンラインミーティングを実施するなど、ソーシャルディスタンスに負けない心の繋がりを大切にしたい取り組みを進めます。

また、市への愛着を高めるため、市テーマソング「この街が好き」の多面的な展開として、小中学校や保育所事業での活用や、市民団体等との連携による取り組みなど、テーマソングをツールとして行政と市民等が一体となった取り組みを進めます。

<p>実績</p>	<p>① 市ゆかり著名人の協力や市民の参加による新型コロナウイルス応援動画を配信。〈出演者数：46人、動画再生回数：7,455回〉</p> <p>② 「ひらかたプロデューサーズオンラインミーティング」を開催。 〈実施回数及び参加者：2回・延べ39人〉</p> <p>③ 市テーマソング「この街が好き」を学校行事への展開を進めた他、市職員や市民参加型の動画配信など地域愛醸成を図るシティプロモーションを実施。 〈動画再生回数：22,016回〉</p>
<p>説明</p>	<p>① 「必ず乗り越える。コロナの先へ」をキャッチフレーズにしたリレーメッセージ動画について、市PR大使や公募により市民に出演いただいて作成し、地域愛の醸成を図りました。</p> <p>② 枚方を愛する「ひらかたプロデューサーズ」のオンラインミーティングを2回開催し、「おすすめのテイクアウトグルメ」などコロナ禍にちなんだテーマで市の魅力発見・発信につなげました。</p> <p>③ 市テーマソングが市民にとってさらに身近な存在となり地域愛の醸成につながるよう、2小学校の運動会や地域の合唱団体等で活用いただいた他、「THE LAST TAKE」と題して市職員が歌唱する動画を発信する等、テーマソングをツールに街を元気づける企画を多面的に展開しました。</p>

具体的な取り組み：広聴相談機能の充実

市民から寄せられた「市長への提言」において、実現に向け継続的な対応が必要となる意見・提言については、効果的に市政へ反映できるよう、回答終了後も継続して担当部署と連携を図り、進捗状況を市ホームページで公表していきます。

また、コロナ禍で生じた影響や課題については、市長が市民や事業者等から直接話しをお伺いする機会づくりにも努めます。

各種相談業務については、ウィズコロナ社会を見据え、インターネット予約やオンライン相談の導入など、ICTを活用した相談体制の充実に取り組んでいきます。

<p>実績</p>	<p>① 「市長への提言」に寄せられた意見・提言の趣旨と市の考え方を要約し、改善事例とともに市ホームページや庁内で公表。 <「市長への提言」受付数：460件></p> <p>② コロナ禍で生じた影響や課題の聞き取りを行うため、ひとり親家庭との意見交換を実施。</p> <p>③ 「生活相談」および「交通事故相談」のインターネット予約とオンライン相談を開始。</p>
<p>説明</p>	<p>① 市民からの声が効果的に市政へ反映できるよう、継続的な対応が必要となる意見・提言については担当課と改善状況の進捗確認を行い、実現した提言については市ホームページで公表しました。</p> <p>② 長引くコロナ禍の影響や課題についての聞き取りを行うため、ひとり親家庭と市長との意見交換を実施し、今後の施策やコロナ対策に求められる支援策等を関係部署と共有しました。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染症の感染リスクを避け、安心して相談してもらえるよう、令和3年11月から「生活相談」および「交通事故相談」のインターネット予約とオンライン相談を開始しました。</p> <p>令和4年度では、さらなる相談体制の充実に向け、大阪弁護士会や大阪司法書士会とも連携を図りながら、オンラインによる法律相談の実現に向けた取り組みを進めます。</p>

具体的な取り組み：人権問題の多様化等に対応する取り組みの推進

新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷や偏見・差別、SNSへの心無い書き込みなど、新たな人権課題への対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、様々な人権問題に対応する施策を効果的に推進するため、令和4年度「(仮称)人権施策基本計画」策定に向け、市民意識調査を実施し、枚方市人権尊重のまちづくり審議会において審議を進めます。

なお、引き続き感染者が多い新型コロナウイルス感染症に関しては、日々刻々と変わる感染症に関する正しい情報を発信し、状況を踏まえた適切な行動ができるよう啓発を行っていきます。

<p>実績</p>	<p>① 「(仮称)人権施策基本計画」策定に向け、市民意識調査を実施するとともに、枚方市人権尊重のまちづくり審議会において、会議及び市民意見聴取を実施。 <審議会の開催回数：4回></p> <p>② 新型コロナウイルス感染症に関する人権啓発の実施。</p>
------------------	---

説 明	<p>① 様々な人権問題に対応する施策を効果的・総合的に推進するため、「(仮称)人権施策基本計画」を策定します。令和3年度は、市民の意識を反映し、外部委員による専門的見地を踏まえた計画となるよう市民アンケート調査を実施し、枚方市人権尊重のまちづくり審議会においては、計画(案)に対する市民意見聴取と会議を4回開催しました。</p> <p>令和4年度は、計画の実効性を高めるため、あらゆる人権侵害を許さないという市の姿勢を発信するとともに、人権問題の分野ごとに本計画に基づく取り組み状況を確認するとともに、人権施策を推進していきます。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症に関連した偏見や差別的な言動等を抑止するために、広報ひらかたへの掲載や法務省制作の人権啓発メッセージ動画の発信、市内施設への人権啓発リーフレットの配架を行いました。令和4年度は、令和3年度に作成した新型コロナウイルス感染症に関するハラスメント「コロハラ」をなくすための啓発動画をホームページで掲載するなど、引き続き啓発を行っていきます。</p>
------------	--

具体的な取り組み：DV被害者支援及び防止啓発に関する取り組みの推進

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として外出自粛や在宅勤務等が行われる中、DV相談の件数は増加傾向にあります。潜在的なDV被害者にも利用してもらえるよう、身近な専門機関として設置している枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」の更なる周知に努めるとともに、関係機関と緊密に連携し、被害者に寄り添った支援を行います。

また、若年層への啓発に重点を置き、男女が対等な存在であるという意識の形成や、暴力を伴わない人間関係の構築に向けて、引き続き、市立小中学校において、人権尊重を基盤としたDV予防教育の充実を図ります。

実 績	<p>① 様々な手法を活用した相談窓口の周知。</p> <p>② ドメスティック・バイオレンス関係機関連絡会議における情報共有及び支援者研修の実施。</p> <p>③ DV予防教育プログラムの実施。＜市立小学校10校、中学校9校＞</p>
説 明	<p>① 潜在的な被害者が相談窓口につながるよう、SNS、市政情報モニター、デジタルサイネージ、自治会でのちらし回覧、パープルライトアップでのちらし配布等、様々な手法を活用し、相談窓口の周知を行いました。また、若年層対象の啓発として、デートDV防止ハンドブックを希望する市内中学校に、デートDV防止啓発カードを希望する市内高等学校に対して配布しました。</p> <p>② DV被害者への適切な支援を行うため、婦人相談所、警察署、消防組合、本市の関係部署等を構成員とする連絡会議において情報共有を行うとともに、「DV被害を受けている母子の理解について」をテーマとして支援者研修を行いました。</p>

	<p>③ 子どもたちを暴力の被害者にも加害者にもさせないために、若年層への防止啓発として教育委員会と連携し、市立小学校 10 校の 4 年生を対象にした DV 予防教育プログラム、中学校 9 校においてデート DV 予防教育プログラムを実施しました。</p>
--	---

具体的な取り組み：ICTを活用した地域での情報連絡体制の構築

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、これまで主にファクスや郵送で行ってきた校区コミュニティ協議会等への連絡・情報発信については、人との接触を避けるため従来の紙による情報伝達が円滑に行えず、ICTを活用した情報伝達が必要な状況にあります。

令和2年6月にICTの活用等について校区コミュニティ協議会及び自治会にアンケートを実施したところ、ICT化に対する需要が見込めることや、地域の課題解決に繋がることが判明した一方、ICTに対応できない住民も一定数いることが確認できました。こうした状況を踏まえ、地域の情報連絡のICT化の推進に向け、地域と共に考え、検討するなど支援を行います。

<p>実績</p>	<p>① 枚方市コミュニティ連絡協議会にて検討会を設置。 ② LINEを活用した情報共有について、10校区で試行実施。</p>
<p>説明</p>	<p>① 枚方市コミュニティ連絡協議会の令和3年度活動目標として「地域における情報共有のICT化に向けた検討」が掲げられるとともに、検討会が設置され、市と共に議論を行いました。 ② ICTによる情報共有の効果を検証するため、令和4年1月、2月に10校区でLINEを活用した情報共有の試行実施を行いました。 <試行実施校区> 東部：田口山校区、菅原東校区 中部：交北校区、山田校区 南部：枚方校区、五常校区 北部：樟葉校区、樟葉南校区、殿二校区、牧野校区</p>